

事業名：筑後川上流域の森林空間・森林資源を活用した、域内経済循環を高める自立・
広域的産業クラスターの形成

地方版総合戦略の KPI 達成に有効であった・・・・・・・・ 14 人

地方版総合戦略の KPI 達成に有効とは言えない・・・・ 1 人

《委員からのご意見》

◆有効であった

- ・新規林業就業者や新商品開発については、事業効果は上がっている。
- ・小中学校での「木育について」の講演やキャリア教育の中での取り組みも考えられるのではないか。
- ・木の香るまちづくり事業は今後も継続的に行うべきである。
- ・総合的なアウトカムとして有効であった
- ・林業界の現状に詳しくなく、また、どちらかといえば強い期待は持てていなかったが、資料を見て大きな効果を知った。特に就業者数の増加は今後の人口増加への期待がふくらむ
- ・ストロー等プラスチック製品の依存脱却が話題になっており、代替品を木製化する新商品開発に取り組み、支援して産業化させたい。
- ・新規林業就業者の継続的に従事しているかの確認も必要ではないでしょうか
- ・平成 31 年度事業内容・目的の森林活用型ビジネス、両市の関連産業の連携、両市の経済循環、の具体的な内容が知りたい。
- ・林業に関係する人達がこの事業をどの程度知っているのか？

◆有効とは言えない

- ・効果は出ているし悪いとは思いませんが、短期的な視点ではなく未来に投資するとしたらここにお金をかけるべきか？と思います。
- ・今の事業者を救わなければならないのはわかりますが、人と未来に投資する、もしくはそのビジョンをつくるのが行政にお願いしたいことです。

＜担当課からの意見＞

当事業は、林業の振興、木材関連産業の活性化、木育の推進を図るため、平成 31 年度までの 4 ヶ年事業として、うきは市と連携して取り組むものですが、事業の内容等については、適宜見直しを行いながら実施しています。

このうち、公共施設等の木質化により日田材の PR と需要拡大を図る「木の香るまちづくり事業」、木育の普及・啓発を図る講演会を開催することで、子供たちが木に触れる機会の創出を目指す「木育推進事業」、木材製品のデザイン力向上のための研修会の開催や新商品開発に係る経費を支援する「木材製品デザイン力向上事業」等については、継続して取り組んでいるところです。

これらの事業の取組だけでは、目標に対する効果の達成は困難であると考えており、新規就業者対策や木材需要拡大対策、森林整備対策などの事業と合わせて、本市林業の振興を図っていきたいと考えています。

事業名：「ジビエでつなぐ森とまち「ひたジビエ」ブランド化事業」

地方版総合戦略のKPI達成に有効であった・・・・・・・・・・ 13人

地方版総合戦略のKPI達成に有効とは言えない・・・・・・・・ 1人

どちらともいえない・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1人

《委員からのご意見》

◆有効であった

- ・災害復旧が進まず評価が難しい。イノシシは減ったがシカは増えている
- ・獣肉処理施設処理頭数とは、捕獲頭数と理解していいのですか。
- ・農林水産物被害額はどのように算出されますか
- ・「ひたジビエ」を定着させるには、地元消費に注力したい。
- ・栄養価高く、健康食と言われるのならば、高齢者用の料理メニュー開発してアピールする
- ・ジビエ料理がいつまで消費者に受け入れられるか？推測が難しい。
- ・安定した需要確保についてさらなる検討が必要だと感じる
- ・有害獣から農地を守る策との連携も気がかりです
- ・総合的なアウトカムとして有効であったと思う（数量も）
- ・平成30年度で終了する事業であるが、事業効果はあったと思う。
- ・今後はさらなる販路拡大（福岡県以外）と日田でしか味わえない料理としての確立を目指すべきである
- ・自立後の自主財源の確保に結びつくような事業展開が必要である。
- ・地域経済の浮場が図られるものとなることを期待したい
- ・資料2を見ると有効であったように感じるが、「ジビエの普及」や「野生鳥獣による農産物被害の軽減」ができたという実感はない。

◆有効とは言えない

- ・子どもたちがこの事業に携わっていること素晴らしいと思います。もともと日田の暮らし、自然とともに生きてきた町のジビエについて、私も知りたいですし、まず日田の人が知っていく必要があると思います。こちらも、より未来と人に向けてつくって頂けたらと感じます。お金以上の価値を生み出してほしいと願います。

◆どちらともいえない

- ・商品開発や福岡での販促キャンペーンと同時に日田市内の飲食店での「ひたジビエ料理」が定番メニューとなる事が創生事業である。そうなり難しい問題点対策が必要。

＜担当課からの意見＞

「ひたジビエ」ブランド化事業は、野生獣肉の地域特産品としての認知度の向上と安定的な収入の確保を図り、獣肉処理施設の経営安定化に繋げる、平成30年度までの3ヶ年事業です。

30年度は、販路拡大のための福岡市内での販売促進活動の他、日田市内においては、昔食べたイメージとして言われることの多い「臭い」「硬い」からの脱却を図るため、既成概念の少ない小中学生には学校給食でのジビエ提供を行い、高校生にはレシピグランプリを開催し、一般市民には食事会で食していただくことで臭みがほとんど無く美味しいことを周知していきます。今後も、有害鳥獣の捕獲対策や被害防止対策と合わせて推進し、鳥獣被害の防止を図っていきたいと考えています。